

ヒヤリ・ハット事例検索

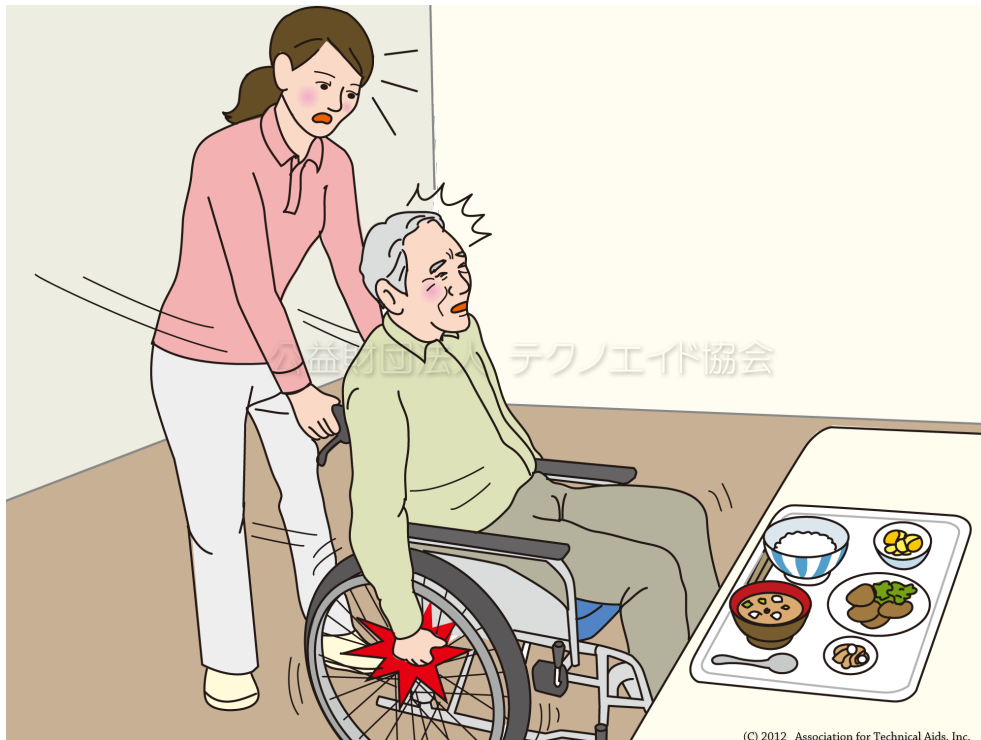
Case139 タイヤに指が入っていることに気づかず操作したため、ケガをしそうになる

種目 車いす

用具の種類 自操用車いす

場面の説明

利用者の腕が下がり、指がタイヤのスポーク内に入っていることに気づかず車いすを操作してしまった



(C) 2012 Association for Technical Aids, Inc.

解説

車いすの後ろに立つと死角となり見えづらい箇所があり、利用者の腕や手の位置も見えづらい場合があります。腕はアームサポートや膝の上に置くことを基本として、移動前に確認することを習慣づけることが大切です。また、走行中の振動などで腕が落ちてしまうこともあります。タイヤに巻き込まれたり脱臼したりという危険があります。頻繁にある場合には放置せず、クッションなどで腕を保持するなどの工夫をしましょう。

参考要因

人：死角になっている箇所に注意がいかなかった
人：急いでおり、目視で確認するのを怠った
モノ：アームサポートの高さが利用者と合っていなかった

CCTA95分類コード 122106